◆ 昼飯村の村絵図について

昼飯村の絵図は、延宝5年（1677年）に作成されたものです。ここでは、北が下に、南が上に描かれています。

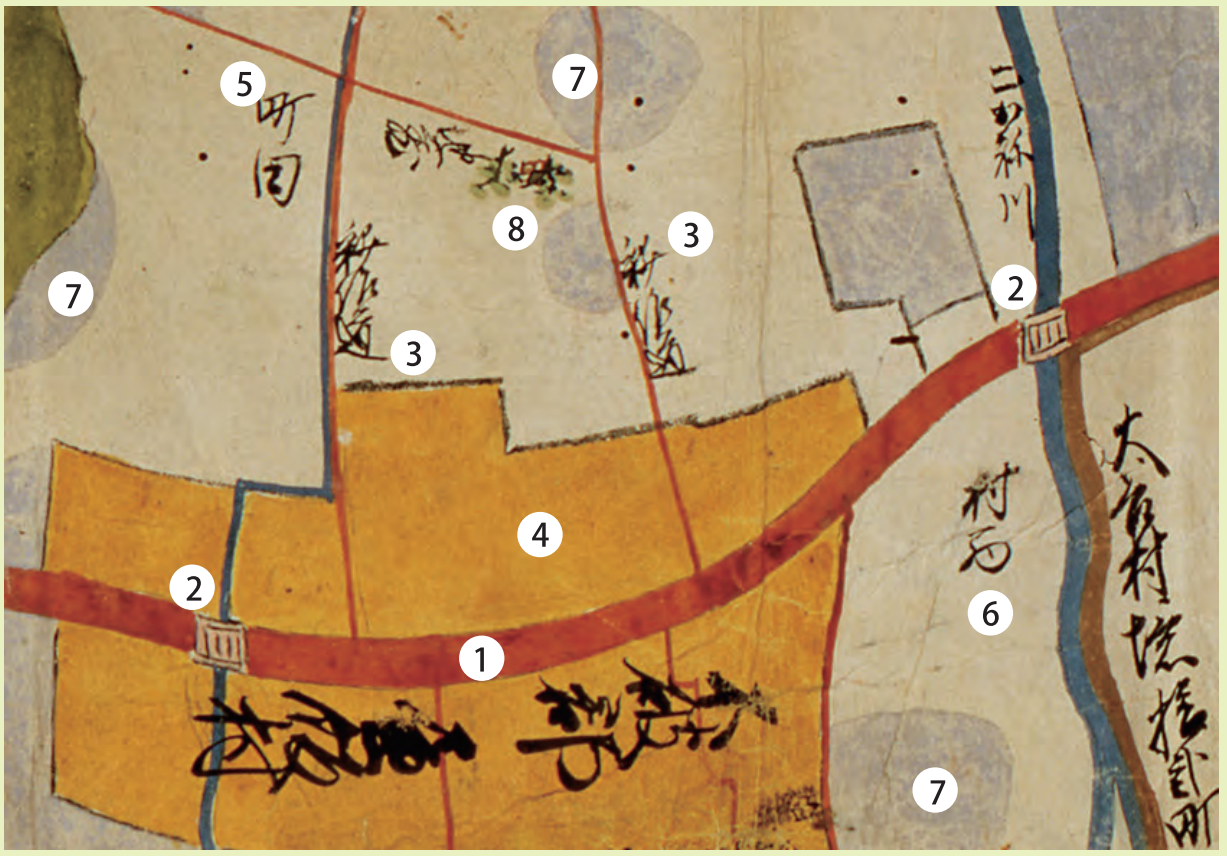
道は**赤色**の線で表されており、村の中央を東西に通っている太い線は、江戸と京とを結ぶ中山道（①）です。

青色の線で描かれた川・水路と中山道とが交差する部分には、橋（②）が描かれています。

本通りである中山道から細い道（**赤色**）が伸びており、「耕作道」と記されている道（③）が何本かあります。

中山道沿いなどに見られる**黄色**で塗られた部分（④）には、村人たちの屋敷地がありました。

色が塗られず「町田」（⑤）、「村西」（⑥）、「かぢや」、「山田」などの地名が記されている所が、田と思われます。



（不破郡）昼飯村之村絵図（部分）　徳川林政史研究所所蔵

畑は、**灰色**で塗られた部分（⑦）で、「岡西」「いなりはた」「如来前」などの地名が書かれている所もあります。

「白髭大明神」、「神明」、「地蔵」（⑧）、「若王大権現」、「朝長八幡」、「南宮」といった宗教施設（社やお堂）も描かれています。

絵図の下に、昼飯村の石高（田や畑・屋敷地などの土地の価値を米の生産量に換算したもの）と土地の東西・南北の間数が書き込まれており、村のおおよその規模が把握できます。

昼飯村と同じく大垣藩が支配していた不破郡の矢道村・長松村（ともに現、大垣市）や、安八郡の小野村（現、大垣市）・下ノ宮村（現、神戸町）などの村絵図も、延宝5年（1677）に作成されています。

江戸時代、村々は幕府・藩・寺社など、それぞれの支配下に置かれ、それぞれの方針に従って統治されました。絵図が作成された当時の大垣藩主戸田氏西（うじあき）は、寛文11年（1671）に藩主となり、延宝8年（1680）に藩の費用節減のために家臣の削減をするなど家中改革を断行しました。村絵図は、この改革に先立って作成されており、大垣藩が個々の村々の実情を理解して、支配に役立てようとしたのではないかと思われます。

村絵図といっても、その作成の目的・契機は様々です。当時の領主支配や周辺地域の状況と照らしあわせたりすることにより、絵図作成時の背景や、当時の村の様子を知ることができます。

岐阜大学地域科学部地域資料・情報センター作成